

研究タイトル：

授業研究・英文学(モダニズム)



氏名：	小林 英治/KOBAYASHI Eiji	E-mail：	s-kobayashie@sendai-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士(文学)・修士(教職専門)
所属学会・協会：	全国高等専門学校英語教育学会, 全国英語教育学会, 東北英語教育学会, 日本英文学会, 東北英文学会・		
研究分野：	文学, 言語学		
キーワード：	英文学(モダニズム), 英語教育学(授業研究), AIと英語学習		
技術相談	・英語学習		
提供可能技術：	・教育相談		

研究内容：

【AI活用型の英語教育】

VUCA と急速なグローバル社会で生き抜く力をつけるためには、対話的な深い学びが一層必要となります。しかし、日々の授業ではコロナ禍の影響もあり周囲の人と話すことが苦手な学生が増えているようです。私はこれまで対話的な深い学びを促進する装置として授業ではコの字型の机配置、dictogloss、知識構成型ジグソー法などを取り入れ仲間と考える授業作りに挑戦してきました。

GIGA スクール構想と令和の日本型学校教育により、義務教育諸学校、高等学校では学習者には個々にタブレット端末が貸与され、個別最適で個性的な学びの環境が整えられました。それに伴い、近年急速に発達した生成 AI も学校教育と深く関わることになりました。ChatGPT、Gemini、Copilot 等に適切なプロンプトを入れれば個々の学びに必要な情報の多くを得られることができます。一方で、AI に依存するあまり、思考力が低下するのではないかと、独創的で創造的なアイデアが生まれにくくなっているのではないかと懸念されることもあります。時代の流れとして、AI を遠ざけることは現実的な選択とは言えません。これからは学びや思考の道具として、AI をどのように活用すればいいかを考えながら AI と向き合う必要があります。高専ではプログラムを学びながら、工学的な観点から AI を研究する場面が多くあります。私は、そのような学習環境のなかで、AI と上手に付き合いながら、より効果的に学びを深められる英語学習の形をデザインしていくことに興味を持っています。

【モダニズム文学と現代社会】

フロイト心理学の影響を受けて 20 世紀はモダニズム芸術の時代と称されました。法治国家で暮らす私たちは日頃から善悪、正義・不正義か、合法的か否かなどの二項対立の世界に支配され、息苦しさを感じることがあります。モダニズム文学は潜在意識・無意識といった目に見えない世界にも目を向け、本来の自分の姿を見つめながら生きていくことの大切さを再認識させてくれます。私たちグローバル社会を生き抜く市民は、自分のこれまでの価値観とは異なる、これまであまり馴染みのなかった言語・文化・宗教・生活習慣を受け入れ、それらの背景を持つ人たちと対等に、互いを尊重しながら、知恵を絞り社会の難題を解決して行くことが求められます。文学と社会をリンクさせ、これからの社会を担う高専生にも文学作品が放つ光を一緒に感じてもらえるように作品研究にも情熱を注いでいきます。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)